



産業廃棄物処理計画書

平成26年6月10日

鳥取県知事 様

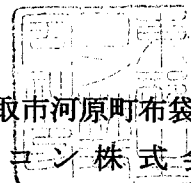
提出者

住所 鳥取県鳥取市河原町布袋521

氏名 東部生コン株式会社

代表取締役社長 高橋 哲夫

電話番号 0858-76-3033



廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	東部生コン株式会社
事業場の所在地	鳥取県鳥取市河原町布袋521番地
計画期間	平成26年4月1日 ~ 平成27年3月31日

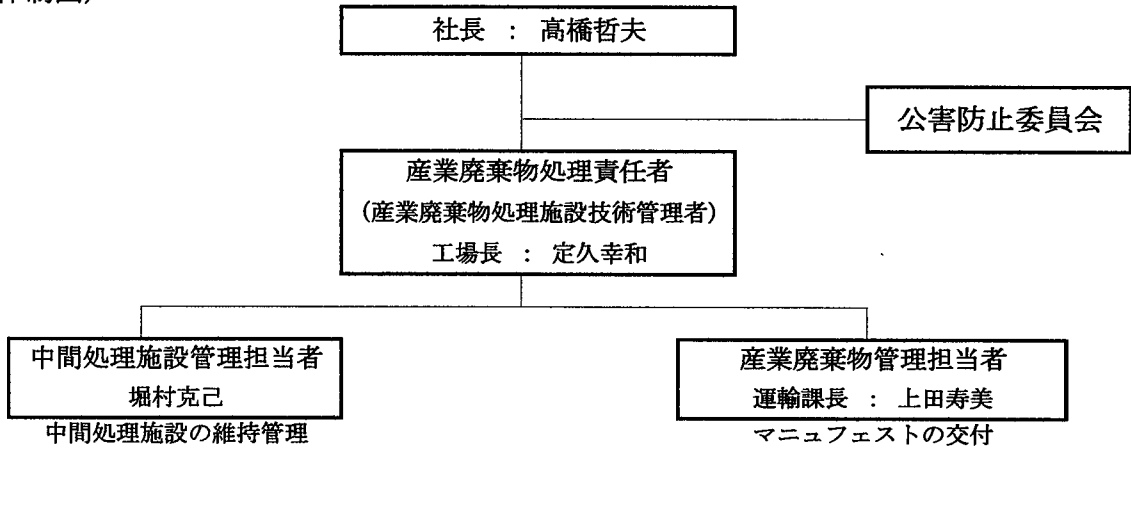
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	生コンクリート製造業
② 事業の規模	製造品出荷額 303,857,906 円 (平成25年度)
③ 従業員数	13名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>戻りコン・洗浄水 → 骨材回収後のスラッジ水(汚泥) → 中間処理(脱水) → 脱水ケキ → 一定期間養生 → コンクリートくずとして破碎業者に処理を委託</p> <p>※ 脱水後の上澄水は全量コンクリートの練り混ぜに使用</p>

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【 前年度 (平成25年度) 実績 】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	5,445 t	t
	(これまでに実施した取組) 洗車回数の制限等を行っているが、生コン出荷量の変動に大きく左右されるため思うように計画削減出来ない。		
②計画	【 目標 】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	5,380 t	t
	(今後実施する予定の取組) 使用水の制限を一段と徹底し、排出削減に努める。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 当社の産業廃棄物はスラッジ水 (無機性汚泥) のみであり、分別の必要なし。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 当社の産業廃棄物はスラッジ水 (無機性汚泥) のみであり、分別の必要なし。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【 前年度（平成25年度）実績 】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 特になし。		
②計画	【 目標 】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【 前年度（平成25年度）実績 】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	4,710 t	t
(これまでに実施した取組) 自社において全量脱水処理を行っている。			
②計画	【 目標 】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	4,734 t	t
(今後実施する予定の取組) 今後も引き続き自社で脱水処理を行う。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【 前年度（平成25年度）実績 】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 特になし。		
②計画	【 目標 】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【 前年度（平成25年度）実績 】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	全処理委託量	735 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	735 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 処理については、再生利用業者に全量を委託している。		

②計画	【 目標 】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートくず	
	全処理委託量	646 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	646 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
(今後実施する予定の取組) 処理については、引き続き再生利用業者へ全量を委託する。			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託料、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「－」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。